

平成22年度  
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が5問で、表紙を除いて10ページです。
- 4 解答用紙は1枚で、答え方はマークシート方式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を解答用紙のきめられた欄に書き、さらに受験番号をマーク欄にマークしなさい。
- 6 答えは、解答用紙に記載されている〔解答マーク記入上の注意〕、および試験開始前に行われたマークシート練習プリントにしたがって、ていねいにマークしなさい。
- 7 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

一

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の――線の、(1)、(2)は他と漢字の読み方が異なるもの、(3)、(4)は例文のカタカナと同じ漢字を用いるものを、それぞれ選べ。

- (1) ア 支度 | イ 度 | 数 | ウ 調度 | エ 度量
- (2) ア 拠点 | イ 根拠 | ウ 証拠 | エ 論拠
- (3) 運営委員会に、ギョウ縮された内容の計画書を提出する。  
ア 人ギョウ | イ 家ギョウ | ウ ギョウ儀 | エ ギョウ固
- (4) 職場体験で、今夏一番の魚カク高を誇る漁港を視察する。  
ア カク得 | イ カク実 | ウ 比カク | エ 間カク

問二

「成功」と成り立ちが同じ熟語は、次のどれか。

- ア 寒暖      イ 専門      ウ 到着      エ 執事

問三

次の慣用語の意味として最も適当なものは、後のどれか。  
腰をすえる。

- ア 我慢して物事を続ける。
- イ 落ち着いて物事を行う。
- ウ 継続して物事に励む。
- エ 張り切って物事に取り組む。

二

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の例文の――部と同じ意味の「れ」を含むものは、後のどれか。

- ア 待望の春は、やわらかな南風に運ばれてやってきました。
- イ うっかり悪いことをして、父にひどくしかられたことがある。
- ウ ホームルームの最後に、先生はにっこりと笑われました。
- エ 故郷に残してきた幼い娘のことが、自然と思い出される。
- エ 学校のグラウンドにあるポプラの大木が、強風で突然倒れた。

問二

次の例文のちよつとと見たの二つの文節の関係として適当なものは、後のどれか。

母は、ちよつと弟の容態を見ただけで、すぐまた店にもどった。

- ア 主語と述語の関係      イ 連用修飾語と被修飾語の関係
- ウ 連体修飾語と被修飾語の関係      エ 並立の関係

問三

次の――線をつけた敬語の中で、種類の異なるものはどれか。

- ア お話をなさつていた間に、急なお電話があつたさうです。
- イ すてきな卒業祝いをくださり、誠にありがとうございます。
- ウ 授業で先生がおつしゃつていた映画を、昨日見てきました。
- エ 誕生日には、ケーキをとてもおいしくいただきました。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(堀河天皇ノ時代)  
堀河院の御時、勘解由次官明宗とて、(上手ナ) いみじき笛吹きありけり。

(a) ゆゆしき心後れの人なり。院、笛聞こしめされむとて、召したりける時、帝の御前と思ふに、わななきて、  
(吹コトガデキナカッタウチ) え吹かざりけり。

① 本意なしとて、相知れりける女房に仰せられて、「私に坪の辺りに  
(オツシヤツテ) 呼びて、吹かせよ。われ、立ち聞かむ。」と仰せありければ、月の夜、

語りひ契りて、吹かせけり。「女房の聞く」と思ふに、はばかりかた  
(話し合イ約束シテ) なくて、思ふさまに吹きける。世に類なく、めでたかりけり。  
(スバラシカッタウチ)

帝、感に堪えさせ給はず、「日ごろ、上手とは聞こしめしつれども、  
(感動ヲオサエルコトガオデキナレズ) かくほどまでは思しめされず。いとどここそ、めでたけれ。」と仰せ出

② だされたるに、「さは、  
(サデク) の聞こしめしけるよ。」と、たちまちに  
臆して、さわぎけるほどに、縁より落ちにけり。(十訓抄から)

(注1) 勘解由 国司交代のとき、書類審査の任にあつた役職。  
(注2) 坪 建物や塀などに囲まれた中庭。ここは、堀河院の御所の中。

問一 (a) ゆゆしき心後れの人、(b) はばかりかたなくての本文中での意味  
は、それぞれ後のどれか。

(1) (a) ゆゆしき心後れの人 (b) はばかりかたなくて

ア たいそう臆病な人 イ いささか引つ込み思案な人  
ウ とても悲観的な人 エ 少しばかり感激しやすい人

(2) (b) はばかりかたなくて

ア これといった心配事もなく イ 何も緊張することなく  
ウ だれに相談するでもなく エ 特に深い意味もなく

問二 ① 本意なしとあるが、だれのどのような気持ちを表すのかの説  
明として適当なものは、次のどれか。

ア 筆者の、明宗が笛を吹けなかったことを不本意に思う気持ち  
イ 明宗の、感動的に笛を吹けなかったことを後悔する気持ち

ウ 女房の、明宗が帝の前で笛を吹かないことを非難する気持ち  
エ 帝の、明宗が御前で笛を吹かなかったことを残念がる気持ち

問三 ② かくほどまでは思しめされず。とあるが、「かく」の指し示す  
内容として適当なものは、次のどれか。

ア 明宗の笛の技量が、傑出して素晴らしいものであったこと  
イ 笛が演奏できなくなるほど、明宗が堀河院を恐れていたこと

ウ 明宗と女房との意気投合ぶりが、とりわけ絶妙であったこと  
エ 月の夜の演奏という、まことに風雅な演出法がとられたこと

問四 に入る語として適当なものは、次のどれか。

ア 月 イ 女房 ウ 帝 エ 明宗

問五 本文中に描かれている内容として適当なものは、次のどれか。

ア 明宗は、帝の前で笛は吹けたものの、帰りに転んでしまった。  
イ 明宗は、女房がそばにいたおかげで、帝の前で笛が吹けた。

ウ 明宗は、月の夜に女房に呼び出され、笛の練習をさせられた。  
エ 明宗は、帝がいるとは思わなかったので、笛を上手に吹けた。



は鳴る鐘の音一つ一つに耳の注意を集めようとするかのようで、そのためにも、幾つもの異なった音の鐘が必要といったあんばいである。

ところで、蛙が水に飛びこむ音や、蟬の声にかぎらず、自然の物は総じて単一である。なかには、「芭蕉野分のわきして盃たらいに雨を聞く夜かな」という俳句の通り、さまざまな音色を含んだ物音もあるにはあるが、しかし芭蕉の耳は激動する台風の響きに奪われているのではなく、実は「盃に雨」を聞いている。いうなら、**A**の中に**B**を求めて充足する耳、あるいは多様より単一にひかれる耳というべきであろうか。

しかもその単一への味到（注2）はまことに徹底したものがあつて、ときには蕪村（注3）の俳句、「春の海終日ひねもすのたりのたりかな」に見るように気の遠くなるような単一を前にする。騒音⑧の中に暮らす現代人にはちよつと縁遠い話のようだが、この単一への味到は、対象に没入しておのれを無にするという、その無我の境に発する心情にはかなるまい。蕪村の身も心も、その無我によつて春の浜辺に打ってはかえす果てしない波の音の中にとけ込んでいって、あとはただ、「のたりのたり」とした「海」だけが、一面に広がっているという光景である。思うに日本の耳はそのようにして松風を愛し、篁（注4）の音を楽しんできた。いわばそれは松風を聞いて風と化し、篁を聞いて水と化す心である。

（小倉 朗の文章から）

（注1） 梵鐘ぼんね 寺院で用いるつり鐘

（注2） 味到あじにたつ 内容を十分に味わい知ること

（注3） 蕪村うらむら 与謝蕪村。江戸時代天明期の俳人

（注4） 篁あしひ 竹で作った、水をひくための管

問一 ① その音も「ポチャン」とか「ポチャン」ではつまらない。とあるが、「つまらない」理由として適当なものは、次のどれか。

- ア 俳句の内容より音の世界にとらわれているから
- イ ありふれた感性でこの句を受け取っているから
- ウ 水に飛びこんだ蛙の絵や波紋を想像するから
- エ 俳句では音のことなどどうでもいいから

問二 ② ⑤ こっけいに、凡庸な本文中での意味の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

- ア ② 困ったことに ⑤ 特別に訓練されていない
- イ ② まちがえたことに ⑤ まったくありふれている
- ウ ② ばかげたことに ⑤ 特に優れたところが無い
- エ ② 興味のあることに ⑤ 特別にするどくて敏感な



問七 騒音の中に暮らす現代人にはちよつと縁遠い話のようだとあ

るが、その理由として適当なものは、次のどれか。

ア 海をながめたり感傷にひたったりするよりも、海に入つて実

際に泳いだりすることを好むから

イ 日常生活と同じように、海に行つても人ばかりで海の静かさ

を味わっている余裕などないから

ウ あわただしい生活環境の中では、一つの物音などに耳を傾け

る心を多くの人が失っているから

エ 一つのことにと氣を取られていては、変化の激しい世の中で生

きていくことなど全く無理だから

問九 この文章の題名として適当なものは、次のどれか。

ア 芭蕉と蟬

イ 無我の境地

ウ 自然の物音

エ 日本の耳

問八 松風を聞いて風と化し、笈を聞いて水と化す心である。とあ

るが、その境地の説明として適当なものは、次のどれか。

ア 周りの音を逃さず、それにうっとり聞き入る境地

イ 対象に没入して、おのれを無にするといった境地

ウ 激動する台風の響きに心を奪われるような境地

エ 蛙の飛びこむ音や蟬の声に聞き入っていた境地

## 五

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

そのあくる日の放課後、仙一は職員室に残されて、受け持ちの松原先生と向かい合って立っていた。仙一の薔薇泥棒が暴露したのだ。松原先生は顔に筋を立てて向かい合っていたが、いきなり仙一の頭をびしゃりとたたいた。仙一ははっとした。固形物のような涙が一つ、ころりと落ちた。

「寺田、君は薔薇の花を盗んだな。」

「はい。」

先生の剣幕<sup>②</sup>があまりに高圧的だったので、仙一は思わず簡単に白状してしまった。

前日の夕方、仙一は鎌<sup>かま</sup>を持って、釣竿<sup>つりざお</sup>にする竹を切りに山へ行ったのだ。帰りに学校のそばを通ると、花壇に咲き残った真っ赤な薔薇の花一輪が目につき急に欲しくなった。自分が欲しくなったと言うよりも、うちで寝ころんでいる由美江の胸に挿したいと思ったのだ。それは、<sup>③</sup>あのあばら屋のなかで華やかな色彩に飢えていたころから来た欲望であった。そこで（ a ） つんでしまった。夕方学校のそばをうろうろしていた仙一の姿を見掛けたというものが出来て来て、仙一に疑いがかけられ、<sup>④</sup>それが的中したのであった。「盗んだ薔薇はどうしたかね。」

先生の声は和らいでいた。

「由美江にやりました。」

「由美江というのはだれかね。」

「妹です。」

「妹はよろこんだか。」

「よろこんだこたアよろこびましたが……」

「よろこんだが、どうした。」

「握り飯や焼き飯もろうて来た時にや、と思いません。」

そのとき松原先生の顔には、薔薇泥棒としての仙一よりも、欠食児童としての仙一の姿が、（ b ） 頭に浮かんで来た。

「君は昼飯食べたか。」

「食べません。」

「朝飯食べたか。」

「隣りのおばさんに焼き飯もらいました。」

「腹は減らんか。」

「減りました。」

額が、いわゆるおでこで、一種岩石のように頑固そうな顔つきをした仙一ではあるが、今そこに立っている仙一には、どこかしらしおれたところがある。

松原先生は、今日の前に（ c ） した仙一を見ていると、卒倒しやしないかと心配になり出した。そのうえ最初に殴りつけた



⑤ ⑥ ことが、暗い自責となつてよみがえつて来た。

「以後、花なんか盗んじやいけないぞ。」

「はい。」

「薔薇の花がほしけりや」と言つて先生は、窓の外の野原を指さした。

「いくらでもあるじやないか。」

窓の外は、黄色く熟れた一面の麦畑である。麦畑の間をぬつて、野山が（ d ）流れている。その川岸や河原には、今が野茨のまつ盛りである。石橋へ出る小道のところでは、茂り合つた茨がトンネルを作つていて、学校へ来る子供たちは花の香にむせびながらその下をくぐるのである。蝶や蜂や蛇がその間をうなり回っている。

その野茨の花をつめばいいじやないか、と松原先生は言うのである。しかし仙一には、野原に咲く白い茨の花なんか、ちつともきれいだと思わないのだ。

⑦ だが、仙一は、野茨の花をつめ、という松原先生の提言に対しては、素直に「はい。」と答えた。

「じゃあ、もう帰つてもよろしい。」

仙一は頭を下げた。

それから鼻緒のきれたぞうりをぶら下げ、はだしで学校の門を飛び出して行つた。

（上林 曉「薔薇盗人」から）

問一 ① 固形物のような涙とあるが、その「涙」の説明として適当なもの、次のどれか。

ア 今まで目にいつぱいたまつていた涙

イ 泣いて見せようとしてやつと出た涙

ウ 思わず目からあふれ出た大きな涙

エ 痛みをこらえながら流した熱い涙

問二 ② ⑤ 剣幕、自責の本文中での意味の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

ア ② ものすごく怒つた態度

⑤ 自分自身を責めること

イ ② ひどく人を見下した態度

⑤ 自分に課せられた課題

ウ ② 教え諭そうとする態度

⑤ 自分を駆り立てる使命感

エ ② 人を包み込む優しい態度

⑤ それとなく相手を責める気持ち

問三 ③ あのあばら屋のなかで華やかな色彩に飢えていたところから

来た欲望とあるが、その「欲望」の底に流れている「仙一」の  
気持ちとして適当なものは、次のどれか。

- ア あばら屋に住んでいるうしろめたさ
- イ 貧しい生活を送っていることへの不満
- ウ 寂しさに耐えている妹に対する優しさ
- エ 明るく華やかな生活に対するあこがれ

問四 ( a ) から ( d ) に入る語の組み合わせと

して適当なものは、次のどれか。

ア	a	ふらふら	b	うねうねと
	c	しおしおと	d	ぼんやり
イ	a	ぼんやり	b	しおしおと
	c	うねうねと	d	ふらふら
ウ	a	ふらふら	b	ぼんやり
	c	しおしおと	d	うねうねと
エ	a	ぼんやり	b	ふらふら
	c	うねうねと	d	しおしおと

問五 ④ それとあるが、その指し示す内容として適当なものは、次の  
どれか。

- ア 「仙一」が薔薇の花を盗んだのであろうという疑い
- イ 妹の胸に薔薇を挿してやりたいという「仙一」の欲望
- ウ 学校のそばを「仙一」が歩いていたという事実
- エ 前日の夕方学校のそばで「仙一」を見かけた人

問六  に入る語として適当なものは、次のどれか。

- ア おとらん
- イ かなわん
- ウ 見せん顔や
- エ こないに喜ばん

問七 ⑥ 以後、花なんか盗んじやいけないぞ。とあるが、この言葉に  
こめられている「松原先生」の気持ちとして適当なものは、次  
のどれか。

- ア 十分に反省した様子が見られるが、念には念を入れておこう  
という気持ち
- イ 興奮した自分を反省したので、今度は冷静に注意を促そうと  
いう気持ち
- ウ 優しい口調で、落ち込んでいる「仙一」のことを励ましてや  
ろうという気持ち
- エ 食事也十分にとれない「仙一」を、しかりすぎないようにし  
ようという気持ち

**問八** <sup>⑦</sup> だが、仙一は、……と答えた。とあるが、その理由として

適当なものは、次のどれか。

**ア** 白い茨などに興味はないが、早く帰りたいし優しく話す先生にも逆らえなかったから

**イ** 歩き慣れた野原の茨などつまらないと思ったが、意見をいうのが面倒くさかったから

**ウ** 担任先生にすすめられた茨だったので、その好意を無視してはいけないと思ったから

**エ** 白い茨などきれいだと思っていなかったが、先生のことばでその美しさが分かったから

**問九** 本文中で描かれている「仙一」の人物像として適当なものは、次のどれか。

**ア** 素直に受け答えするものの、自分の考えを曲げない頑固な少年

**イ** 貧しいながらも明るい生活を夢みる、無邪気で優しい少年

**ウ** 軽率な行動が目立つが、明るい性格できわめて純真な少年

**エ** どころなく卑屈であるが、一方でこだわりのない愉快な少年